令和2年6月23日

魚沼市議会議長 遠藤 徳 一 様

総務文教委員会

委員長 本 田 篤

総務文教委員会調査報告書

本委員会は、所管事務について下記のとおり調査したので、魚沼市議会会議規則第110条の規定により報告します。

記

- 1 調査事件名 (1) 閉会中の所管事務等の調査について
(2) その他
- 2 調査の経過 6月23日に委員会を開催し、付託案件の審査を行った。
閉会中の所管事務等の調査については、これを行うこととした。

総務文教委員会会議録

1 審査事件

- (1) 請願第1号 30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書の採択を求める請願書
- (2) 議案第49号 魚沼市奨学基金条例の一部改正について
- (3) 議案第50号 魚沼市体育施設条例の一部改正について
- (4) 議案第51号 魚沼市ふるさと回帰育英基金条例の制定について
- (5) 議案第56号 広神中学校体育館改修工事請負契約の締結について
- (6) 議案第58号 財産（高規格救急自動車）の取得について
- (7) 議案第59号 財産（消防団用消防ポンプ自動車）の取得について

2 調査事件

- (8) 閉会中の所管事務等の調査について
- (9) その他

3 日 時 令和2年6月23日 午前10時

4 場 所 本庁舎3階 委員会室

5 出席委員 星野みゆき、大桃 聡、大平恭児、志田 貢、大平栄治、渡辺一美、
本田 篤、(遠藤徳一議長)

6 欠席委員 なし

7 説明員 佐藤市長、梅田教育長、吉澤教育委員会事務局長、山之内消防長、
斎藤学校教育課長、大桃生涯学習課長、古田島消防総務課長

8 書記 佐藤議会事務局長、磯部議会事務局次長

9 経 過

開 会 (10:00)

本田委員長 定足数に達しておりますので、ただいまから総務文教委員会を開会いたします。
本委員会に付託されました議案について審議願います。

- (1) 請願第1号 30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書の採択を求める請願書

本田委員長 日程第1、請願第1号、30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書の採択を求める請願書を議題とします。最初に紹介議員であります高野甲子雄議員に説明を求めます。高野議員、紹介議員席に着席ください。なお、お手元に配付した資料は、高野議員から提出された資料です。

高野紹介議員 紹介議員の高野甲子雄です。30人以下学級実現と、義務教育費国庫負担制度2分の1復元を図るための2021年度政府予算に係る意見書採択の請願の関係についてであります。請願事項と請願の趣旨、理由については、お手元の請願書のとおりであります。ただ、請願の第1項は、毎年お願いしてあります表現と少し今年度は違っております。今年度の請願は、教職員の多忙化解消の意味合いでの教職員配置をより強く要望している趣旨になっていると、私は理解しております。この間の請願行動により、新潟県内では2015年度から小中学校全学年で少人数学級が実現いたしました。昨年度からは、小学校3年生、4年生の下限25人が撤廃になり、少人数学級の完全実施をまた一歩前進させることができたと思っております。しかし、小学校5年生、6年生、中学校全学年には、下限25人の条件があるため、完全実施には至っておらない状況であります。文部科学省の2020年度予算は、約5兆4,000億円。文科省が概算要求した学校における働き方改革や、複雑化、困難化する教育課題に対応するための教職員数は4,235人でありましてけれども、予算の実現については3,726人とどまっております。このうち2千人は、チームティーチング加配から専科教員への組み換えであり、実質改善数は1,726人とどまっていると伺っております。この間、政府の働き方改革の議論の中でも、改めて教職員の多忙化問題がクローズアップされ、昨年5月には、魚沼市の教育委員会からも保護者に対して、学校教職員の多忙化解消に向けた取組みへの協力をお願いがなされていると記憶しております。少子化で子供たちが少なくなるのだからこのままでいいじゃないか、との意見もありますが、国立教育政策研究所が行った調査では、自然と少人数になった学級よりも、現行を下回る学級編成を継続したほうが学習に対して効果的だったというデータが出ているということも聞いております。今、新型コロナウイルス感染症対策で、教職員は3密の中、多忙を極めている状態と聞いております。教職員の多忙化対策はまさに喫緊、緊急の状況であると感じております。子供たちの教育の充実につながる30人以下学級実現の請願でございます。本請願は、市長にも要請がなされていると聞いておりますので、市長にもお願いをし、本請願が満場一致で採択いただけますようお願いをし、趣旨説明とさせていただきます。よろしくお願いたします。

本田委員長 これから、紹介議員に対する質疑を行います。質疑はございますでしょうか。

星野委員 以前はこの請願に、30人以下学級実現の後に、下限25人というのがついてたかと思うんですけども、この下限25人がなくなった理由が分かれば教えていただきたいのですが。

高野紹介議員 この理由については、30人以下学級の最大のネックは、国による財源措置が十分になっていないということが根本の原因なんだろうと考えています。そういうことからすれば、財政措置が4年生まで措置できるようになったと私は捉えています。

星野委員 私は、子供が小学校の頃、3クラスから2クラスに減るということで、1クラス

の人数が非常に増えるということで、この活動に真剣に署名活動を行った経緯がありまして、そのときは30人以下というところよりも、下限25人。ここを撤廃すれば3クラスが実現するというので、力を入れておりました。この資料を見ますと、堀之内中学校の現2年生は下限25が撤廃されれば3学級になると記載がございますし、下限25をそのまま請願の文章にあってもよかったのではないかと思いますので、いかがでしょうか。

高野紹介議員　確かにそういう意見もあろうかと思えますし、私もその辺については分かります。けども、ここで下限ということで具体的に出てきたというのは、それだけ学校現場なり、財政措置をしていただきたいということが逼迫した課題になってきていると受け止めておりますので、そのように30人以下学級実現のための一つの財政的な壁になっているということでご理解いただければと思っています。

星野委員　私とその署名活動を行っていたのが10年前くらいなんですけれども、そのとき他県では、秋田県ぐらいが30人以下学級というのが県独自で実現していたんですけれども、今現在、それが実現している都道府県が増えていると聞いているんですが、もしその辺が分かれば教えていただきたいのですが。

高野紹介議員　具体的にその辺の全国的な状況については、私のほうでは存じておりませんが、請願の趣旨理由の説明にもありますように、財政的な問題になりますと、ある程度県のほうでかなりの措置ができる財源がある県なのか、教育問題に対して理解との違いで自治体間の格差が出るので、国のほうで責任を持って教育予算のほうは措置をしていただきたいという請願にもなっていますので、ぜひそういう形で受け止めていただいて、この請願については採択いただきたいと思っています。

渡辺委員　今の質疑と関連するんですけれども、これは国に対する請願ということで、県に対してはこれまでもしてこなかったと、この段階として請願はしてこなかったと思っているんですけれども、その辺り、県に対しての要望はまた独自の形でやってらっしゃった上で、毎年新潟県のほうが少しずつではありますけれども、25人を撤廃するとか、国の40人から35人にするとかということをしていると思って、国だけの請願ということになるのでしょうか。

高野紹介議員　この間もずっとこの請願については出てきています。そういうことで、請願の趣旨説明にもありますように、いわゆる義務教育の国庫負担制度。これが2分の1から3分の1になったという、これが三位一体改革の関係だと思っていますけれども、そうしますと、分かりやすく言いますと国が3分の1、自治体が3分の2になりますから、自治体の持ち出しが多くなっていると。そうすると自治体が財政的な部分をするには、自治体の財政力に関わってくると。ということは、各自治体によって教育の格差が生じるということで、この義務教育の国庫負担制度の割合を、今3分の1になっていますから2分の1に戻してくれというのが第2項の請願になっていると理解しております。

本田委員長　ほかに質疑はございますでしょうか。(なし) なければ、これで紹介議員に対する質疑を終結いたします。高野議員はご退席ください。

続きまして、本件に関しまして執行部に確認したいことがありましたら、発言を許します。

大平(恭)委員　確認なんですけど、今ほど紹介議員が述べられた小学校5年生、6年生及び

中学生の少人数学級に至っていないという話がありました。これは、県の段階等でも議論されている中身だと思いますけれども、そこら辺の少人数学級への議論というのは、どのような検討もしくは議論になっているのか伺います。

梅田教育長　　今、紹介議員からご説明がありましたけれども、35人以下学級なわけですが、3年生から中学3年生につきましては35人以下学級になっているんですが、特に今年から3、4年生が下限25人という枠を撤廃しまして、36人から39人までの場合は2つに分けると25人に満たないんですけども、プラス1名を配当しましょうと。71人から74人については3つに分けると25人に満たないんですが、それもプラス1名配当しましょうということで、3、4年生については今年から1名加わったということで改善していると思います。ただ、5、6年生、中学生については、36人以上の学校に対して教科、国語、数学、理科、英語等が35人以下でできるように定数の中で配置をするというようなことで、県のほうからそういう話が来ておりますので、少しずつ改善していくという動きは見られています。

大平（恭）委員　　今ほどご説明がありました中身は、こういう請願だけではないでしょうけれども、各方面からの働きかけの上でそういう改善が勝ち取られたという経緯があるのではないかと推察しております。しかしながら、昨今の教員の多忙化とコロナウイルス等でも非常に教職員の方の多忙化がさらに拍車がかかっているような状況を伝え聞きます。子供たちの様子も非常に微妙なところもかなりありますので、これは先ほど紹介議員があつたように、少人数学級に進んだ県あるいは学校等でも、かなり学力の向上だとかいい面がいろいろ出ているということだと思うのですが、この具体的な中身についての議論。ちょっと今ご紹介いただけなかったのも、特に実現をしていない5、6年生、中学生への対応について、どんな理由からそういう状況になっているのか。また、今後どういう検討がなされるような予定だとか方向性がありましたら聞かせていただきたいと思います。

梅田教育長　　予定、方向性という質問でございますが、40人学級ということから35人ということで、1人、2人というその人数については、微妙なところ、県の予算の中で配当しているんだろうと思うわけですが、私たちが一番今困っているのは、例えば少人数の学校、小規模の学校等に複式学級とか、1年、3年という飛び複式学級とか、そういうところに規定であれば配当してもらえないけれども、加配というプラスアルファの面で強く要望していて、可能になってはいますので、県のほうも配当するけども正規の教員を配当しないで、地元で臨時で探してほしいという、そういう欠員教員が多いので、そこら辺非常に私たちは困っているという現状があります。今後の方向性については、県も大変な状況というのは分かりますが、私たち地元もしっかり要望していきたいと思っております。

渡辺委員　　今回このような分かりやすい資料を出していただいてよかったと思います。その中で、新潟県としては35人以下学級を実施して、下限、これは小学校5年生から中学3年生までは25人というのがあるということで、39人とか40人になってしまうと40人のクラスができるということになるかと思うんですけども、先ほど星野委員のほうからも、そのような25人を撤廃していくという方向性についてというお話がありました。魚沼市として、またほかの教育委員会として、県に対してそのような要望等は行っているのでしょうか。

梅田教育長　　毎回、人事異動が終わってこの時期に、今年度の異動についてどうだったかというこの意見を求められる懇談会が、県の管理主事と私たちの場を設けていただいて、

そこでそういう要望については細かく、ぜひとも来年に生かしていただきたいということは要望している機会を設けております。

渡辺委員 その地域、地域に合った実情としての要望ではなくて、今回出てきたのは30人以下学級、そして義務教育費国庫負担金の2分の1を復元するというございますけれども、例えばクラスのことと言えば、各市町村のほうから県に何人以下にしてほしいとか、25人の下限を撤廃してほしいとかというような、そういった要望というのはしていますでしょうか。具体的な数字としてです。

梅田教育長 市として要望というのはしておりません。ただ、市町村でつくる教育長の会、それから組合と、他団体でも30人以下学級については要望しています。

渡辺委員 そうしますと、それぞれの教育長等で構成されている組織として、この30人以下学級を要望していると確認させていただき、そして、義務教育の国庫負担制度の3分の1から2分の1になったときに、魚沼市としてはどのようなメリットがあると考えられますか。

梅田教育長 2分の1になれば当然、県は教員の数をもっと増やすと思いますし、正規の教員が来れば、どちらかという魚沼は教員確保困難地域と言われているここにも教員がより配当されるのではないかという期待はあります。

本田委員長 ほかに質疑はございますでしょうか。(なし) 質疑なしと認めます。これで質疑を終結いたします。討論を省略し、採決することにご異議ありませんか。(異議なし) 異議なしと認めます。よって、討論を省略し採決することに決定しました。これから請願第1号、30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書の採択を求める請願書を採決いたします。お諮りします。本件は採択することにご異議ありませんか。(異議なし) 異議なしと認めます。よって、請願第1号は、採択すべきものと決定されました。本請願を採択としましたので、本会議でも採択された場合の意見書発議について協議いたします。意見書(案)を配付いたします。

(意見書案配付)

配付漏れはありませんか。(なし) それでは意見書案について事務局長に朗読させます。

佐藤議会事務局長 (意見書(案)朗読)

本田委員長 お諮りいたします。ただいま朗読のあった意見書でご異議ありませんか。(異議なし) 異議なしと認めます。それでは、本会議で採択されたときには、委員長が提出者となり委員会で発議することにご異議ありませんか。(異議なし) 異議なしと認めます。そのように決定されました。

(2) 議案第49号 魚沼市奨学基金条例の一部改正について

本田委員長 日程第2、議案第49号 魚沼市奨学基金条例の一部改正についてを議題とします。執行部から補足説明はありませんか。

佐藤市長 ありません。

本田委員長 これから質疑を行います。質疑はございますか。

渡辺委員 延滞金の利率が変わるということなんですけれども、現在、魚沼市でこの奨学金

の延滞金が発生してらっしゃる対象者というのは何人くらいいらっしゃいますでしょうか。
吉澤教育委員会事務局長 現在、滞納者が18名であります。滞納者につきましては、まず元金部分といいますか貸付金部分を先に納付してもらうような働きかけをしておりますので、今、延滞金を付けて徴収しているという対象者はありません。

渡辺委員 予算のときにも質疑して、今幾らか分かりますかと言ったら、元本が終わらなければ延滞金が出てこないというお話だったので、教育委員会でもそのような状況でしょうか。

吉澤教育委員会事務局長 はい。まず元金部分を先に返還してもらってから、延滞金の計算をするということであります。

渡辺委員 今ちょうどコロナの中で、滞納されている方々も、お金が苦しい方々がそうされているのではないかと考えているんですけども、ちょっと話は違うかもしれませんけれども、今、減免ですとか、猶予ですとか、そういった滞納されている方々に対してもそういった制度というのはあるのでしょうか。

吉澤教育委員会事務局長 今回のコロナに関することについて申し上げますと、返還猶予最大1年間ということで、先般周知をさせていただきました。免除は現在のところごく例外的にしか認めておらず、今のところ考えていないということであります。

渡辺委員 滞納者も猶予はできるんですか。

吉澤教育委員会事務局長 制度の趣旨としては、今返還している方に対しての返還猶予であります。滞納している方については、それとは別に分納ですとか返還計画について別途提出してもらうなどということをしております。

渡辺委員 このコロナの中での1年間の猶予ですけれども、ここは滞納している方たちは分納だけで、滞納部分については猶予は認められないということよろしいですか。

吉澤教育委員会事務局長 返還猶予の制度は、基本的には通常どおり返還している方への猶予ということですので、滞納している人については、今までの滞納についての分納の誓約について相談に応じるということになるかと思えます。

大平（恭）委員 法定利率が変わったということで、今回これを変えるというご説明でしたけれども、これは今現在、他の自治体調べてみたんですけども、対応が少し違うように思われます。利率のほうも少し違うように思われますが、ここは他の自治体も同様に法定利率にという枠をかけるのでしょうか。そこら辺の動きはつかんでらっしゃいますか。

吉澤教育委員会事務局長 ほかの自治体について全てを調べたわけではありませんが、法定利率の改正に伴って変えるというところではございました。それがどの程度全体の自治体に占めるということまでは調べておりません。

大平（恭）委員 法改正は、3年ごとに利率を見直す。ただし1%以上という話があったかと思えます。法定利率ということであれば、今後もし経済状況だとかその他の事情で利率が変わったときには、これは条例改正としては載らないということになるのでしょうか。そこら辺の考え方について聞かせてください。

吉澤教育委員会事務局長 今回条例で法定利率ということで決めましたので、法定利率が変わった都度の条例改正というのは予定しておりません。

大平（恭）委員 そういうときでも法定利率という条例の改正が行われれば、わざわざ示さ

ないということでしょうけれども、滞納されている方、特に当事者は非常に大きな問題だし、これは市民に広く周知するという意味でも、私は改正もしくは変更があったときには、それなりに周知をするべきだと考えますが、その辺についてはいかがでしょうか。

吉澤教育委員会事務局長 返還中の奨学生といますか奨学金を返還中の対象者については、その都度周知をするということと考えております。

大平（恭）委員 法定利率に変更された理由は、国の指導及びその他関係機関の働きかけ等があつて、こういう法定利率にしますという運びになったのか、その辺の経過についてお聞かせください。

吉澤教育委員会事務局長 奨学金の返還につきましては、基本的に貸付金の返還ということで、民法に規定が改正されることによってこの条例改正が必要ではないかということは、直接的には本市の法務担当の総務人事課からの話があり、それで今回内容を精査したところ改正すべきだということに改正したいということになります。

本田委員長 ほかに質疑はございますか。（なし）質疑なしと認めます。これで質疑を終結します。討論を省略し、採決することにご議ありませんか。（異議なし）異議なしと認めます。よつて、討論を省略し、採決することに決定しました。これから議案第 49 号について採決します。お諮りします。本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。（異議なし）異議なしと認めます。よつて、議案第 49 号 魚沼市奨学基金条例の一部改正については、原案のとおり可決すべきものと決定されました。

（3）議案第 50 号 魚沼市体育施設条例の一部改正について

本田委員長 日程第 3、議案第 50 号 魚沼市体育施設条例の一部改正についてを議題とします。執行部から補足説明はありますか。

佐藤市長 ございません。

本田委員長 これから質疑を行います。質疑はございませんか。

星野委員 広神プールは、夏休みでの合宿が主な利用だったと思うのだけれども、漏水する前、最終の利用は平成 29 年だったと思うんですが、そのときの利用状況が分かれば教えてください。

吉澤教育委員会事務局長 合宿での利用については、平成 29 年が最後だったということは承知しておりますけれども、利用団体数とか人数ということでしょうか。申し訳ありません。今、ちょっと分かりません。

星野委員 昨年の北部、下条のプールの利用状況も分かれば併せていただければと思います。

吉澤教育委員会事務局長 申し訳ありません。先ほどのご質問と併せて後ほどお答えさせていただきます。

大平（恭）委員 後利用は今後考えますというご説明でしたけれども、これについては、例えば広神中学校関係者、こういう地元のほうからその後についての考え及び要望なんかは上がっているかどうか。それを確認させてください。

吉澤教育委員会事務局長 現在のところ、特にいただいておりません。

大平（恭）委員 この撤去は、地元の方々、学校関係者等には既に周知はされているのかど

うか伺います。

吉澤教育委員会事務局長 既に周知をしております。

渡辺委員 ここは市民プールの使用方もそうなんですけれども、広神中学校の学校のプールとしても使用していたんだと思うんですけれども、29年が最後ということは、昨年度、その前の2年間くらいは、広神中学校のプールとしても使用がなかったのでしょうか。

吉澤教育委員会事務局長 中学校では、プールでの水泳が必須でなくなったということもありまして、実施をしていないということでもあります。

渡辺委員 そうしますと、今中学校でプールがあって、プール授業をしているという学校はどのくらいあるんですか。

吉澤教育委員会事務局長 現在、堀之内中学校1校であります。

渡辺委員 そうしますと、中学生になるとどこの学校も今は、例えば地元になかったとしても北部プールを利用するとかというような授業の仕方もあるかと思うんですが、どの中学校も水泳授業をしていないということによろしいですか。

吉澤教育委員会事務局長 堀中以外はそれとおりであります。

渡辺委員 必須でなくなったので水泳の授業がないということだとは思いますが、これは教員はそれに従うんだとは思いますが、保護者の皆さん等と子供たち等からは水泳授業を続けたいというような要望というのはないのでしょうか。

吉澤教育委員会事務局長 そういう要望は特に届いておりません。

渡辺委員 そうしますと、市民プールとしての役割を担っていたこの広神の中学校のプールなんですけれども、今後、下条、北部プールのみで市民プールとして活用していくというおつもりなのか、また、今後の市民プールのあり方というようなことについては、教育委員会としてはどのようにお考えでしょうか。

吉澤教育委員会事務局長 北部プールにつきましては、今後も活用の予定であります。下条につきましては公共施設再編計画によりますと、今後、時期が来たら用途廃止をするという計画になっております。

先ほどの広神プールの関係であります。平成29年度の広神プールの合宿利用が126人でありました。平成30年につきましては、広神プールはなし。下条が、一般開放はありましたが、合宿利用はなし。小出北部は一般開放1,224でありました。なお、平成29年度につきましては、下条については合宿利用なし。一般開放514。小出北部は一般開放1,444であります。

本田委員長 ほかに質疑はございますでしょうか。(なし) 質疑なしと認めます。これで質疑を終結します。討論を省略し、採決することにご異議ありませんか。(異議なし) 異議なしと認めます。よって、討論を省略し、採決することに決定しました。これから議案第50号について採決します。お諮りします。本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。(異議なし) 異議なしと認めます。よって、議案第50号 魚沼市体育施設条例の一部改正については、原案のとおり可決すべきものと決定されました。

(4) 議案第51号 魚沼市ふるさと回帰育英基金条例の制定について

本田委員長 日程第4、議案第51号 魚沼市ふるさと回帰育英基金条例の制定についてを議題とします。執行部から補足説明はありませんか。

佐藤市長 ございません。

本田委員長 これから質疑を行います。質疑はありませんか。

渡辺委員 現在の魚沼市に既に奨学金の制度があります。このふるさと回帰育英基金条例の中でのこの奨学金の制度なんですけれども、募集をするときにどのような募集の仕方をして、振り分けるといふ言い方は変なんですけど、どのような違いがあつて申込者がそれが分かるように周知していくのかという辺りと教えていただきたい。

吉澤教育委員会事務局長 このたびのふるさと回帰育英基金につきましては、将来魚沼市で就業すると、ふるさとに回帰する者のためのということでもありますので、そのような奨学生には返還の免除を検討しているところです。そういうことで、既存の奨学金については、卒業後の特にそういうようなどという方向に進むかについての定めはありませんが、このふるさと回帰育英基金につきましては、戻ってきてくれる奨学生については返還の免除を考えています。

渡辺委員 そのことがはっきりと分かる形でこの奨学金を募集していくということだと思つています。もう1点の、この中には経済的理由により就学困難でありという条件が付いております。想定している要件というのは、就学困難というところの要件はどのように考えていますか。

吉澤教育委員会事務局長 詳細にはこれから制度を検討していきたいと思いますが、基本的には既存の奨学金と同じ程度にしておいて、帰ってきてくれる奨学生には返還免除というようにことで差を付けたいと考えております。

渡辺委員 そうしますと、これは明らかに魚沼市で将来は就職したいと、魚沼市に住んで就職していただくということでもよいのかもしれませんが、その場合、既存の奨学金との併用というのは可能ですか。

吉澤教育委員会事務局長 その点につきましても今後検討したいと思つておりますが、併用できるという制度も想定しております。

本田委員長 ほかにございませんか。(なし) 質疑なしと認めます。これで質疑を終結いたします。討論を省略し、採決することにご異議ありませんか。(異議なし) 異議なしと認めます。よつて、討論を省略し、採決することに決定しました。これから議案第51号について採決します。お諮りします。本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。(異議なし) 異議なしと認めます。よつて、議案第51号 魚沼市ふるさと回帰育英基金条例の制定については、原案のとおり可決すべきものと決定されました。

(5) 議案第56号 広神中学校体育館改修工事請負契約の締結について

本田委員長 日程第5、議案第56号 広神中学校体育館改修工事請負契約の締結についてを議題とします。執行部から補足説明はありませんか。

佐藤市長 ございません。

本田委員長 これから質疑を行います。質疑はありませんか。

大桃（聰）委員 提案のときに図面の変更が出ていたんですけども、私も最初見たときは分かりませんでした。森山議員が見つけたということになるわけですけども、私、一般質問にも述べましたが、委託の検査をきちんとやらないと、という部分が一つ。これはここでしゃべる話ではないのでいいんですけども、建築工事だと監理委託がつくんですけど、監理委託は委託業者さんがたぶん特別事情がなければなるはずですが、監理委託がつけばどうでもいいという話ではなくて、きちんとした監督員についていただかないと、と私は思っています。こういう間違いを見つけられるとか、仕事の中身とかというのを。ただ、教育委員会の中に建築の専門家なんているはずがないので、できれば分かる人つけていただきたいんですけども、無理だとするならば市役所の中に建築に明るい方もいらっしゃるし、今回この庁舎を作った人たちもいるもんですから、そういう方に逐一アドバイスをいただくような、そういう体制が取れないかお伺いします。

吉澤教育委員会事務局長 ご指摘のとおり教育委員会には技師採用の職員はいませんので、建築については今年度から管財課ができたことありますが、そういう工事関係に明るい職員、詳しい部署に相談しながら進めていきたいと考えております。

大桃（聰）委員 契約の話で工事の話をして申し訳ないと思っておりますけども、監督員が素人であるというかプロでない部分は承知していますし、仕方ないと思うんですけども、やはりそこは監理者と相談するのもいいですけども、監理者自体は自分で設計図作っていますから、そうすると思ひ込みでそのままみたいながあるので、実際今おっしゃった管財のほうの、これを作った担当の方とかによく相談して、アドバイスいただくようお願いして質疑を終わります。

大平（恭）委員 排煙窓等の改修というのは、今回この対象になっているんですか。見ても分からない。

斎藤学校教育課長 全面改修ということになりますので、そういった防災的な部分については全面的に、それは規定ですので、必要な部分は改修するということになります。

大平（恭）委員 体育館の排煙窓の開閉等では、湯之谷小学校で開閉が非常に大変だと、担当されている方が難儀をされている話も伺いました。手で、ハンドルで回すという作業を何十か所もやっていると。これは非常に大変ですし、同じような方式は取らないでほしいと私は思うんですが、せっかく改修するんですから。今、電動等、リモコン、センサーで開閉するようなものがあると伺っています。その辺の改修については、詳細がもしなければ改善を求めたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

斎藤学校教育課長 その辺はまた設計の中で、今お話も聞かせてもらったところですので、もう一度精査の部分は中身をよく見て、これは必要だということになれば検討することにしていただきたいと思います。

大平（恭）委員 災害等での避難場所等の、昨今非常に厳しい基準だとか対応を求められておりますので、特にコロナ下では換気は非常に重要だと思われまますので、そこら辺また留意して、日常の体育館の施設の利用だけではなくて、避難所等に最大限配慮した対応を行っていただきたいと思いますが、再度見解を伺って終わります。

斎藤学校教育課長 避難所等にもなるという部分もありますので、そういったところを十分検討して工事を施工することといたします。

本田委員長　ほかにございますか。(なし) 質疑なしと認めます。これで質疑を終結いたします。討論を省略し、採決することに異議ありませんか。(異議なし) 異議なしと認めます。よって、討論を省略し、採決することに決定しました。これから、議案第 56 号について採決します。お諮りします。本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。(異議なし) 異議なしと認めます。よって、議案第 56 号 広神中学校体育館改修工事請負契約の締結については、原案のとおり可決すべきものと決定されました。

(6) 議案第 58 号 財産(高規格救急自動車)の取得について

本田委員長　日程第 6、議案第 58 号 財産(高規格救急自動車)の取得についてを議題とします。執行部から補足説明はありますか。

佐藤市長　ございません。

本田委員長　これから質疑を行います。質疑はありますか。

星野委員　入札業者が少ないと感じるんですけども、入札に参加する業者が少ないのか、それとも特別な資格が必要であるから、この資格を満たしている業者が少ないのか、その辺は分かりますでしょうか。

山之内消防長　今ほどの件につきまして、この高規格救急自動車の資格につきましては、車両以外に医療資機材が積載される関係で、高度管理医療機器等販売業の許可を受けた業者でないと参加できない状況となっております。

星野委員　その資格をお持ちの会社は市内に何業者あるんでしょうか。

山之内消防長　市内に 2 業者ということです。もう一点追加させていただきますと、今ほどの高度管理医療機器等販売業についてはもう 1 事業者ありますけども、車両と両方ということになりますと 2 業者ということになります。

星野委員　この 2 業者しか入札に入っていないというのが続いているように感じるんですけども、実際これ以外の業者があったというのは、遡るとどれくらい前なのかということが、もし分かるようでしたらで結構なんですけれども。

山之内消防長　現在、市内の業者を優先しておりますので、市外ということになりますとこれ以上にありますが、現在どれくらいの応募の業者があるかどうかの数までは、市外については押さえておりません。

大桃(聡)委員　この正誤表がなんで出てきたんですか。理由が分かりますか。間違った原因です。

山之内消防長　最初に訂正の資料を出ささせていただきました、それにつきましては記載の誤りという形で担当から聞いております。

大桃(聡)委員　ただ単に記載の間違いという、そういう理解でよろしいですか。

山之内消防長　はい。そのとおりだと思います。

大桃(聡)委員　物も高額で、契約の議案で議会に出ます。そういう中では、こういう単純ミスがないようにきちんとするよう、よろしくお願いします。

山之内消防長　今ほどのご指摘のとおり、今後さらに精査した上で資料を提出するように努めたいと思います。

本田委員長　ほかに質疑はありませんか。(なし) 質疑なしと認めます。これで質疑を終結します。討論を省略し、採決することに異議ありませんか。(異議なし) 異議なしと認めます。よって、討論を省略し、採決することに決定しました。これから議案第 58 号について採決します。お諮りします。本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。(異議なし) 異議なしと認めます。よって、議案第 58 号 財産(高規格救急自動車)の取得については、原案のとおり可決すべきものと決定されました。

(7) 議案第 59 号 財産(消防団用消防ポンプ自動車)の取得について

本田委員長　日程第 7、議案第 59 号 財産(消防団用消防ポンプ自動車)の取得についてを議題とします。執行部から補足説明はありませんか。

佐藤市長　ございません。

本田委員長　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

大桃(聰)委員　これは虫野に入れ替えて入るわけですけども、軽に積んだ可搬のポンプとかがあるんですけど、この消防車という、これは今魚沼市の消防団に何台あるんですか。

山之内消防長　現在、消防団にはポンプ車のほうを 4 台、今回更新します虫野のポンプ車を入れまして 4 台。それ以外に小形の軽ポンプ車といわれるものがもう 1 台ありますので、ポンプ車というと 5 台ということになります。

大桃(聰)委員　その配備先だけ教えていただけますか。

山之内消防長　消防ポンプ自動車の配備先になりますと、堀之内地区の小町。小出地区の南本町、虫野。湯之谷地区の大沢。それから軽ポンプ車につきましては、小出地区の羽根川に配備しております。

本田委員長　ほかにございますか。(なし) 質疑なしと認めます。これで質疑を終結します。討論を省略し、採決することに異議ありませんか。(異議なし) 異議なしと認めます。よって、討論を省略し、採決することに決定しました。これから議案第 59 号について採決します。お諮りします。本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。(異議なし) 異議なしと認めます。よって、議案第 59 号 財産(消防団用消防ポンプ自動車)の取得については、原案のとおり可決すべきものと決定されました。

(8) 閉会中の所管事務等の調査について

本田委員長　日程第 8、閉会中の所管事務等の調査についてを議題とします。お諮りします。本委員会が閉会中に所管事務等の調査を行うことについて、議長宛て申し出たいと思います。ご異議ありませんか。(異議なし) 異議なしと認めます。したがって、閉会中の所管事務等の調査については、議長宛て申し出を行うことに決定しました。

ここで、執行部は都合により退席となりますが、退席前に委員の皆様から執行部に対して何かございますでしょうか。(なし) それでは、執行部のほうは退席いただきます。

しばらくの間、休憩といたします。

休 憩 (11 : 03)

再 開 (11 : 15)

本田委員長 休憩を解き、会議を再開いたします。

(9) その他

本田委員長 日程第9、その他を議題といたします。委員の皆さんからご意見、協議事項等
はございますでしょうか。(なし)本日の会議録の作成については、委員長に一任願いま
す。本日の総務文教委員会は、これで閉会いたします。

閉 会 (11 : 16)